

掛川市・袋井市病院企業団立
中東遠総合医療センター
医師臨床研修プログラム



中東遠総合医療センター臨床研修病院群
令和 7 年度

目 次

中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム概要

1	プログラム名称	1
2	中東遠総合医療センターの理念・基本方針	1
3	中東遠総合医療センター医師臨床研修の理念・基本方針	1
4	プログラムの目的	1
5	プログラムの特色	2
6	研修実施施設	3
7	研修計画	3
8	プログラムの管理運営体制	4
9	指導体制（プログラム責任者、副プログラム責任者、指導医、上級医、指導者）	5
10	プログラム修了後の進路	10
11	研修医の募集及び待遇等	10
12	問い合わせ先	11
13	その他の臨床研修の取り扱い	11
	臨床研修の到達目標	12
	分野別（各診療科）臨床研修プログラム	別冊

中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム概要

1 プログラム名称

中東遠総合医療センター医師臨床研修プログラム

2 中東遠総合医療センターの理念・基本方針

【理念】

中東遠総合医療センターは、掛川市及び袋井市をはじめとする中東遠地域の基幹病院として、すべての人に質の高い医療を提供し、愛され、信頼される病院を目指します

【基本方針】

1. 地域連携のもとに、地域住民にとって必要とされる患者中心の質の高い医療を提供します。
2. 地域の救急体制の核として、充実した救急医療を行います。
3. 保健・医療・福祉の連携のもとに、地域住民の健康増進と健康管理に貢献します。
4. 災害時には命を守るための拠点となります。
5. 職員が誇りと働きがいを持って地域医療に尽くすことができる職場環境を整備します。
6. 良質な医療を提供するため、教育、研修を充実します。
7. 持続的かつ安定的な健全経営を実現します。

3 中東遠総合医療センター臨床研修の理念・基本方針

【理念】

地域に愛され、信頼される病院の一員として、医師としての人格をかん養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身に付けるとともに、思いやりの心を持った医師を育成する。

【基本方針】

1. 当院の医療体制は、患者が中心となって成り立っていることを理解する。
2. 患者の将来に良い影響を与えられるように、他職種と協力して最善の医療を提供できるようになる。
3. 指導医あるいは上級医の指導の下、主体的に診療に参画し、主治医としての責務を自覚する。
4. 生涯にわたる自己学習の習慣を身につけ、症例発表や論文作成などの学術活動を積極的に行う。
5. 医師、看護師及びその他の医療従事者をはじめとする病院職員全員が研修医教育に参加する。

4 プログラムの目的

本プログラムは、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につけることを目的とする。

5 プログラムの特色

① 静岡県内トップクラスの救急症例数と指導体制

救急部門（救命救急センター）は、救急科医師（救急専門医4名を含む）の指導により、E.R.の外来診療からI.C.U.の高度集中治療まで充実した研修が可能である。救急搬送患者数は静岡県内でもトップクラス（年間約7,000件）であり、近隣に同規模病院が少ないことから、24時間365日、さまざまな症例を経験することができる。救急搬送患者もウォークイン患者も、指導医のフォローの下で、研修医がファーストタッチする。2022年10月からはドクターカーの運行を開始している。

② 研修医主体の勉強会・研修会で確実なレベルアップ

救急外来及び日常診療での研修医のレベルアップを図るべく、勉強会・研修会を多数開催している。研修医自らが企画を立てて準備し勉強会を主催しており、研修医のニーズに合わせて、今必要な知識、より実践的な知識を提供できるようサポートしている。

当院独自の「研修医到達度試験」（1年次：救急業務、2年次：病棟業務）は大きな特長の一つであり、知識や技術の修得状況を確認しながら、確実なレベルアップを図ることができる。

内科会や臨床病理検討会（CPC）では、専門医のサポートを得て研修医が症例を発表することで、学会発表の練習にも役立てることができる。

2021年度の研修医基本的能力評価試験（研修医の全国模試）では、参加642病院中15位という成績を収め、当院の教育の成果が客観的にも表れている。

③ 病院全体で研修医をサポート

毎年、医学生が当院での研修を選択する理由の上位に、「雰囲気の良さ」が上げられる。

各診療科の指導医が、毎月の研修開始時のオリエンテーション、研修指導、研修評価・フィードバックまで責任を持って丁寧に指導している。

また、指導医だけでなく、看護師やコ・メディカルも積極的に研修医教育に関わり、病院全体で研修医を育てる環境が整っている。「職種間の風通しがよく明るい雰囲気」は、当院の大きな特徴の一つであり、質問しやすく、わからない時は誰でも丁寧な指導を受けることができる。

④ 大学病院並みの充実の施設設備

当院は、平成25年に開院した病院で、施設は新しく、da VinciやPET-CTなどの最新鋭の医療設備が整っている。また、さらなる病院機能の強化を図るため、新棟の整備と既存棟の大幅改修を計画している。

⑤ 主要な診療科が揃い、幅広く自由度の高い研修を提供

静岡県中東遠医療圏（人口約47万人）の基幹病院として、主要な診療科が揃っていることで、さまざまな症例を幅広く経験することができる。

研修スケジュールは、1年ごとに研修医それぞれの希望を聞いて決定し、一度決定したスケジュールであっても3か月先以降は変更可能としており、自由度の高い研修が特徴である。

⑥ 研修の仲間は全国から

2018年度から5年連続で研修医14人フルマッチを達成した。

当院の研修医は全国各地の大学から集まっており、特定の大学に偏りがないのが特徴で、誰でも研修を行いやすい雰囲気がある。

⑦ 初期研修から専門研修まで継続的な指導

当院では、「2年+専門研修で一人前の医師を育てる。」という考え方で、初期研修から専門研修

までの継続的な研修プログラムを構築している。

2023年度の研修修了者14人のうち12人が引き続き3年目に当院で専門研修を行っている。(内科5人、外科1人、整形外科2人、脳神経外科1人、耳鼻いんこう科1人、リハビリテーション科1人、病臨診断科1人)

専門医制度の基幹施設となる領域を増やす取り組みも進めており、研修医がより当院に残りやすい環境づくりを行っている。

6 研修実施施設

区分	施設名	研修分野
基幹型臨床研修病院	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター	内科(総合内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科)、救急科、外科、小児科、産婦人科、脳神経外科、整形外科、麻酔科、リハビリテーション科、泌尿器科、皮膚科・皮膚腫瘍科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線診断科、腫瘍放射線科、病理診断科、臨床検査科
協力型臨床研修病院	菊川市立総合病院	精神科
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科、選択科研修
	公立森町病院	地域医療
研修協力施設	菊川市家庭医療センター	地域医療
	森町家庭医療クリニック	地域医療
	御前崎市家庭医療センター しろわクリニック	地域医療

7 研修計画

(1) 研修期間

原則として2年間とする。

(2) 研修計画

分 野	研修期間	備 考
国で定める必修科目	内 科	24週 ローテート
	救急部門	12週
	外 科	4 週
	小 児 科	4 週
	産婦人科	4 週
	精 神 科	4 週 協力型臨床研修病院にて研修
	地 域 医 療	4 週 研修協力施設にて研修
	一般外来	4 週 総合内科、小児科、地域医療の研修時に並行研修として実施
病院で定める必修科目	整 形 外 科	4 週
	麻 醉 科	4 週
病院で定める選択必修科目	脳神経外科、泌尿器科、皮膚科・皮膚腫瘍科から選択	4 週
オリエンテーション・基礎研修		4 週 1年目4月に実施
選択科目		24週 研修先は研修医の希望により決定

(3) 研修スケジュール参考例 ※ 網掛けは選択科目

① 総合（ローテート）志望

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	基礎研修	内科（ローテート）							救急科		小児科	精神科
2年目	地域医療	産婦人科	麻酔科	外科	脳神経外科	整形外科	放射線診断科	眼科	皮膚科	耳鼻科	泌尿器科	救急科

② 専門志望

ターム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目	基礎研修	内科（ローテート）							救急科		小児科	精神科
2年目	地域医療	産婦人科	麻酔科	外科	脳神経外科	整形外科	内科系、外科系、救急科など、研修医が志望する診療科					

※ 研修医個々のローテーションは、臨床研修管理委員会で調整の上、決定する。

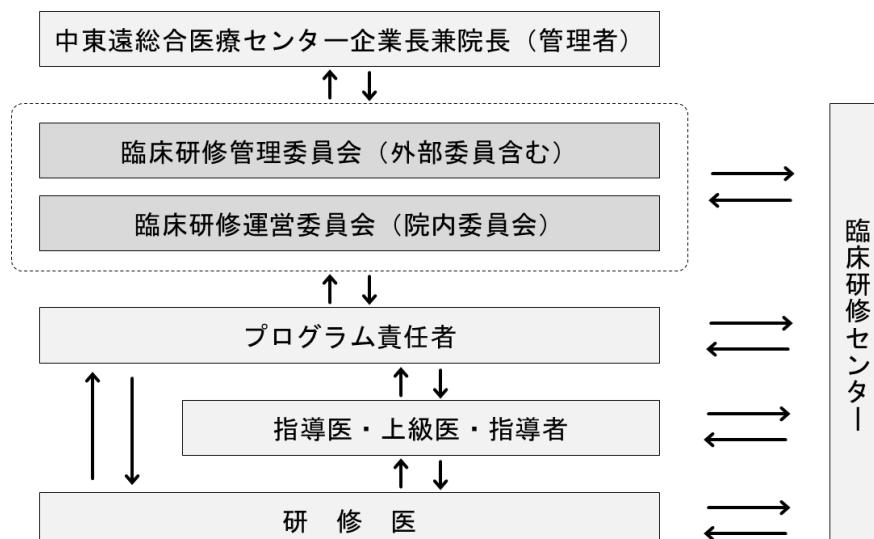
8 プログラムの管理運営体制

中東遠総合医療センター企業長兼院長を管理者とし、病院群全体で研修医育成を行う体制を支援し、プログラム責任者や指導医等の教育担当者の業務が円滑に行われるよう配慮する。また、臨床研修管理委員会やプログラム責任者の意見を受けて、研修医に関する重要な決定を行う。

臨床研修管理委員会は、基幹型臨床研修病院である中東遠総合医療センターに設置し、管理者、プログラム責任者、事務部門の責任者、看護部門の代表者、診療技術部門の代表者、研修医の代表者、協力型病院及び研修協力施設の研修実施責任者、外部委員(医師)、有識者及び管理者が必要と認める指導医・上級医をもって構成する。臨床研修の実施を統括管理する機関であり、最上位の決定機関である。

プログラム責任者は、臨床研修関連実務を統括し、研修プログラムの企画・立案及び実施の管理並びに研修医に対する助言、指導その他の援助を行う。

本プログラムの管理運営体制及び指導体制の全体像は下図のとおりである。



9 指導体制（プログラム責任者、副プログラム責任者、指導医、上級医、指導者）

(1) プログラム責任者

循環器内科 森川 修司（副院長・臨床研修管理委員会委員長）

(2) 副プログラム責任者

整形外科 石井 久雄（院長補佐・臨床研修管理委員会副委員長）

(3) 指導医・上級医

・指導医：臨床経験 7 年以上で、指導医講習会を受講した医師

・上級医：臨床経験 2 年以上の医師

担当分野（診療科）	所属	役職	氏名	区分
総合内科	中東遠総合医療センター	診療部長	大瀬 綾子	上級医
糖尿病・内分泌内科	中東遠総合医療センター	医長	四方 雅隆	上級医
腎臓内科	中東遠総合医療センター	副院長	赤堀 利行	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	稻垣 浩司	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	辻 将志	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	古澤 真	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	鈴木 彰	上級医
脳神経内科	中東遠総合医療センター	副院長	若井 正一	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	寺澤 賢彦	上級医
呼吸器内科	中東遠総合医療センター	部長	森川 昇	上級医
消化器内科	中東遠総合医療センター	部長	池上 倭二	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	高柳 正弘	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	松葉 朋彦	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	竹内 悠祐	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	山口 智大	上級医
循環器内科	中東遠総合医療センター	副院長・医務局長	森川 修司	指導医・プログラム責任者
	中東遠総合医療センター	診療部長	高山 洋平	上級医
	中東遠総合医療センター	診療部長	城向 裕美子	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	井上 直也	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	組橋 裕喜	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	鈴木 綾子	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	三科 貴	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	早川 輝	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	大日方 遼	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	高橋 奈生	上級医
外科	中東遠総合医療センター	企業長	宮地 正彦	指導医・管理者
	中東遠総合医療センター	副院長	京兼 隆典	指導医
	中東遠総合医療センター	副医務局長	河合 徹	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	相場 利貞	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	中橋 剛一	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	深田 浩志	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	斉藤 大佑	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	池田 幸陽	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	石田 万智	上級医
血管外科・乳腺外科	中東遠総合医療センター	診療部長	久世 真悟	指導医
整形外科	中東遠総合医療センター	副院長	浦崎 哲哉	指導医
	中東遠総合医療センター	院長補佐	石井 久雄	指導医・副プログラム責任者
	中東遠総合医療センター	部長	落合 聰史	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	藤田 友樹	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	大島 和馬	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	宮地 巧	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	藤田 貴子	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	北澤 謙太郎	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	渥美 元英	上級医

担当分野（診療科）	所属	役職	氏名	区分
脳神経外科	中東遠総合医療センター	副医務局長	鳥飼 武司	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	松尾 州佐久	上級医
	中東遠総合医療センター	部長	北村 拓海	上級医
	中東遠総合医療センター	部長	林 裕樹	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	妹尾 隆星	上級医
小児科	中東遠総合医療センター	副院長	岩島 覚	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	矢田 宗一郎	上級医
	中東遠総合医療センター	診療部長	關 圭吾	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	早野 聰	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	山口 慎	上級医
	中東遠総合医療センター	部長	早川 晶也	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	伊藤 裕	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	古澤 由梨	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	本橋 康弘	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	猿渡 ちさと	上級医
産婦人科	中東遠総合医療センター	院長補佐	村上 裕介	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	田中 晶	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	戎野 志織	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	大嶽 宙士	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	窪川 瑞生	上級医
泌尿器科	中東遠総合医療センター	診療部長	松本 力哉	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	佐藤 亮	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	松永 悠	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	西尾 哲治	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	吉見 侑大	上級医
皮膚科・皮膚腫瘍科	中東遠総合医療センター	参与	戸倉 新樹	上級医
	中東遠総合医療センター	(統括) 診療部長	大塚 正樹	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	森下 ナオミ	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	柚木 茉里那	上級医
眼科	中東遠総合医療センター	副院長	堀田 喜裕	指導医
	中東遠総合医療センター	部長(科長)	宇佐美 貴寛	上級医
	中東遠総合医療センター	部長	田中 彩乃	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	山田 亮佑	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	山下 理実	上級医
耳鼻いんこう科	中東遠総合医療センター	医長(科長)	増田 守	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	池羽 宇宙	指導医
	中東遠総合医療センター	医員	竹内 実喜子	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	松下 賢悟	上級医
放射線診断科	中東遠総合医療センター	診療部長	石原 雅子	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	池田 隆展	上級医
腫瘍放射線科	中東遠総合医療センター	部長	平田 真則	上級医
麻酔科	中東遠総合医療センター	副院長	内山 智浩	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	秋永 泰嗣	指導医
	中東遠総合医療センター	診療部長	山本 洋子	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	姜 乃佳	上級医
	中東遠総合医療センター	医長	池田 優	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	石野 起也	上級医
リハビリテーション科	中東遠総合医療センター	部長(科長)	渡邊 浩司	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	勝山 貴博	上級医
病理診断科	中東遠総合医療センター	部長(科長)	鈴木 大介	指導医
	中東遠総合医療センター	医員	望月 駿佑	上級医
救急科・集中治療科	中東遠総合医療センター	院長補佐	松島 晓	指導医
	中東遠総合医療センター	部長	淺田 馨	指導医
	中東遠総合医療センター	医長	河野 礼	上級医
内科	中東遠総合医療センター	診療部長	新島 邦行	上級医
	中東遠総合医療センター	部長	山本 史子	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	村林 直樹	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	大槻 佳代子	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	飯室 敬太	上級医
	中東遠総合医療センター	医員	垣花 実	上級医

【協力病院・協力施設の指導医・上級医】 ※ 令和6年度の状況

担当分野（診療科）	所属	役職	氏名	区分
精神科	菊川市立総合病院	診療科長	大城 将也	指導医・研修実施責任者
地域医療	菊川市立総合病院	副院長	二見 肇	指導医・研修実施責任者
	菊川市家庭医療センター	医長	潘 鎮敬	上級医
地域医療	森町家庭医療クリニック	所長	棚橋 信子	指導医・研修実施責任者
	森町家庭医療クリニック	非常勤医師	鳴本敬一郎	指導医
地域医療	しろわクリニック	所長（部長）	吉野 弘	指導医・研修実施責任者
	しろわクリニック	科長	綱分 信二	指導医
地域医療	浜松医科大学	地域医療学講座特任教授	井上 真智子	指導医
	浜松医科大学	地域医療学講座特任助教	樋口 智也	指導医
地域医療	公立森町病院	院長	中村 昌樹	指導医・研修実施責任者
	公立森町病院	副院長	大場 浩次	指導医
	公立森町病院	副院長	水野 義仁	指導医
	公立森町病院	医長	児玉 乾	指導医
	公立森町病院	医長	松家 健一	指導医
選択	浜松医科大学医学部附属病院	卒後教育センター特任准教授	大橋 温	指導医・研修実施責任者
精神科	浜松医科大学医学部附属病院	精神医学教授	山末 英典	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	子どもこころの発達研究センター特任教授	土屋 賢治	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	児童青年精神医学特任教授	高貝 就	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科講師	竹林 淳和	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科講師	和久田 智靖	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神医学助教	横倉 正倫	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神医学助教	亀野 陽亮	指導医
精神科	浜松医科大学医学部附属病院	精神医学助教	青山 美紗子	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科助教	藤田 宏治	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科助教	長谷川 美沙紀	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	精神医学特任助教	岡本 宙	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	健康管理センター特任助教	佐野 文都	上級医
精神科	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科診療助教	中村 佳夏	上級医
放射線科	浜松医科大学医学部附属病院	精神科神経科診療助教	山口 潔乃	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線診断学教授	五島 聰	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線腫瘍学教授	中村 和正	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線診断学准教授	市川 新太郎	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科特任准教授	尾崎 公美	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科講師	那須 初子	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線診断学助教	牛尾 貴輔	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線腫瘍学助教	小西 憲太	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線腫瘍学助教	若林 紘平	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科助教	芳澤 暢子	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科助教	棚橋 裕吉	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科診療助教	川村 謙士	指導医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科診療助教	紅野 尚人	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科診療助教	舟山 慧	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科診療助教	廣瀬 裕子	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	朝生 智之	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	池田 隆展	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	太田 尚文	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	小久保 亮	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	久綱 雅也	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	大杉 章博	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	鈴木 蓮	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	長谷川 花枝	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	中原 万里	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	井口 亮太	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	伊豫田 隆郁	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	岡 聰太朗	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	藤本 拓也	上級医
	浜松医科大学医学部附属病院	放射線科医員	藤本 澄里	上級医

(4) 指導者

職種	部署 (病棟)	役職	氏名
看護師	看護部	看護部長	杉山 久美子
		副看護部長	鈴木 智子
		副看護部長	村上 真弓
		副看護部長	出野 章子
		副看護部長	清水 里美
		看護師長	石牧 ひとみ
		副看護師長	大場 和香奈
		副看護師長	山本 恵子
	第1外来	看護師長	齊藤 ゆかり
		看護師長	寺田 裕子
副看護師長		中谷 みゆき	
副看護師長		大石 まゆみ	
第2外来	看護師長	小野 美登利	
	副看護師長	柿田 尚美	
	副看護師長	窪野 宏美	
手術センター・中央材料室	看護師長	上田 洋子	
	副看護師長	山崎 洋子	
	副看護師長	鈴木 浩子	
	副看護師長	川島 千尋	
血液浄化センター	看護師長	大岡 和代	
	副看護師長	岡本 里佳	
	副看護師長	染葉 久美子	
救命救急センター・外来	看護師長	兼子 仁美	
	副看護師長	山下 美樹子	
	副看護師長	鍵山 貴代美	
救命救急センター・病棟	看護師長	山鳥 藍	
	副看護師長	寺田 芳明	
	副看護師長	中川 知華子	
I C U ・ C C U	看護師長	工藤 美和	
	副看護師長	森田 こず江	
	副看護師長	赤堀 樹里	
4階東病棟	看護師長	久野 千年	
	副看護師長	菅沼 幸代	
	副看護師長	中村 かおり	
4階西病棟	看護師長	蓮池 のり子	
	副看護師長	堀 紗子	
	副看護師長	杉山 聖子	
5階東病棟	看護師長	村松 清子	
	副看護師長	戸塚 結城	
5階西病棟	看護師長	高橋 はる香	
	副看護師長	鈴木 友香	
	副看護師長	一色 有紀子	
6階東病棟	看護師長	立石 恵子	
	副看護師長	大箸 妙	
	副看護師長	佐野 雅人	
6階西病棟	看護師長	太田 和代	
	副看護師長	奥野 雪枝	
	副看護師長	藤田 和代	
7階東病棟	看護師長	宮崎 なをみ	
	副看護師長	服部 映子	
	副看護師長	松浦 由香	
看護師	7階西病棟	看護師長	泉地 絵里
		副看護師長	武井 美佳
		副看護師長	水谷 昌平
	8階西病棟	看護師長	名波 昌子
		副看護師長	水野 富子
		副看護師長	中山 梨沙
		副看護師長	後藤 洋子

職種	部署 (病棟)	役職	氏名
看護師	医療安全管理室	副室長	石田 佳子
		看護師長	三浦 由視
	感染対策管理室	看護師長	斎藤 ちはる
		看護師長	外山 和加子
		看護師長	鈴木 明美
	がん総合診療センター	副センター長	八木 純
		副看護師長	櫻井 尚子
薬剤師	薬剤部	部長	中山 貴美子
		室長	田辺 由紀子
	薬剤室	技監	伊藤 政治
		副室長	北島 信三
		副室長	浅井 澄子
		主査	佐藤 誠太郎
		主査	佐竹 啓彰
		主査	山本 麻里子
診療放射線技師	診療技術部	部長	中山 修
		室長	小栗 徳彦
	診療放射線室	副室長	土井 良高
		副室長	糟谷 信貴
		主査	和田 大輔
		主査	鈴木 大輔
		主査	毛受 義孝
		主査	落合 義隆
臨床検査技師	臨床検査室	室長	石堂 統
		副室長	森下 裕子
		副室長	大塚 美和
		副室長	鈴木 健之
	臨床研究管理室	副室長	豊田 宜子
		主査	上村 桂一
		主査	鈴木 直子
		主査	鈴木 貴子
理学療法士	リハビリテーション室	室長	服部 賢哉
		副室長	川合 旬美
		主査	村松 元氣
管理栄養士	栄養室	室長	天野 香世子
臨床工学技士	臨床工学室	室長	鈴木 誠悟
		副室長	松浦 知美
		主査	坪井 俊
社会福祉士	地域医療支援センター	主任主査	中山 大輔
		主査	筒井 牧人
		主査	久保田 勇貴
	がん総合診療センター	主任主査	鈴木 真寿実
事務職員	管理課兼臨床研修センター	係長	増田 令子
	経営戦略室兼臨床研修センター	主任主査	大村 泰久

10 プログラム修了後の進路

2年間の研修修了後は、原則として専門医制度に沿って採用する。希望すれば志望する診療科の専攻医（正規医師）として採用され、専門医資格取得を目指すことができる。ただし、志望する専門研修プログラムや病院の事情により採用できないこともあるが、その場合は中東遠総合医療センターが連携する他院の専門研修プログラムや関連大学等への推薦が可能である。

11 研修医の募集及び待遇等

(1) 募集人員 14名

(2) 募集方法 マッチングシステムによる

(3) 応募資格 医師国家試験合格（見込み）者

(4) 応募手続

ア 応募書類 研修申込書兼履歴書、卒業（見込）証明書、成績証明書

イ 応募期間 令和6年7月1日～8月31日まで

(5) 選考方法等

ア 選考日時 病院ホームページに掲載する

イ 選考方法 書類選考（エントリーシート）

適性検査（SPI試験）

面接試験（第1次面接、第2次面接。同日に2回面接を行う）

グループディスカッション

(6) 处遇等

ア 雇用方法 非常勤職員（会計年度任用職員）

イ 給与 基本賃金 1年目 396,200円 2年目 444,900円 ※診療手当を含む

期末手当 1年目 約560,000円 2年目 約890,000円

宿日直に関する手当 1年目 日直 30,000円/回 宿直 25,000～35,000円/回

2年目 日直 40,000円/回 宿直 40,000～50,000円/回

時間外手当（診療業務の実働に応じ支給）

*年収見込（1年目：750万円程度 2年目：900万円程度）

ウ 勤務時間 原則として、土日、休日を除く午前8時15分から午後5時まで。

日当直は月4回程度とする。（当直明けの勤務は 午前9時までとする。）

エ 休暇 有給休暇：1年目 10日 2年目 11日

（リフレッシュ休暇はそれぞれ3日、他には忌引き休暇等特別休暇あり）

オ 宿舎 病院周辺の物件を病院が契約して提供する。

（個人負担は、月10,000円～20,000円程度）

カ 研修医室 医局内の独立した研修医室を使用

キ 社会保険等 公的医療保険：全国健康保険協会

公的年金保険：厚生年金保険

労働者災害補償保険法の適用あり、雇用保険あり

ク 健康管理 健康診断（年2回）実施

ケ 医師賠償責任保険 病院施設賠償保険と併せ、医師賠償責任保険（包括式）にも病院として加入する。

コ 外部の研修 院外での勉強会、研修会、学会等についても、ローテート中の診療科の長の了解を得て、参加することができる。参加する場合は、10万円を上限に病院から

旅費・参加費を支給する。

(7) その他

初期臨床研修期間中のアルバイトは、禁止する。

12 問い合わせ先

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター 臨床研修センター

〒436-8555 静岡県掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

電話：0537-28-9501 FAX：0537-28-8971

E-mail : kensyu@chutoen-hp.shizuoka.jp

URL : <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp>

13 その他の臨床研修の取り扱い

本臨床研修プログラムに定めるもののほか、プログラムにおける臨床研修の取り扱いについては、「中東遠総合医療センター臨床研修管理規程」及び「中東遠総合医療センター臨床研修に関する取り決め事項」による。

臨床研修の到達目標

厚生労働省の定めた到達目標にあわせて、分野別（各診療科）で定められた到達目標を、当院のプログラムの達成目標とする。

「厚生労働省の定める到達目標」

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え方・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

- 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。
- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
 - ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
 - ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

- 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。
- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
 - ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

- 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。
- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
 - ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
 - ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
 - ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

- 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

- 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

- 医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

経験すべき症候（29症候）

ショック、体重減少・るい痩、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

経験すべき手技

気道確保、人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む）、胸骨圧迫、圧迫止血法、包帯法、採血法（静脈血、動脈血）、注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）、腰椎穿刺、穿刺法（胸腔、腹腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、気管挿管、除細動等の臨床手技を身につける。